SEMI D3-91（Reapproved 0709）
FPD 基板の有効範囲の仕様

NOTICE: This translation is a REFERENCE COPY ONLY. If differences should exist between the English version and a translation in any other language, the English version is the official and authoritative version.

免責事項： この SEMI スタンダードは，投票により作成された英語版が正式なものであり，日本語版は日本の利用者各位の便宜のために作成したものです。万が一英語と日本語とに差異がある場合には英語版記載内容が優先されます。

SEMI スタンダード日本語翻訳版をご利用にあたっての注釈を本文の末尾に記載しております（「すべきである」「しなければならない」について等）。

本スタンダードは，Flat Panel Display – Factory Automation Global Technical Committee で技術的に承認されている。現版は 2009 年 5 月 13 日，global Audits and Reviews Subcommittee にて発行が承認された。2009 年 7 月に www.semi.org で。初版は 1991 年発行，前版は 2003 年 7 月に発行された。

NOTICE: This Standard or Safety Guideline has an Inactive Status because the conditions to maintain Current Status have not been met. Inactive Standards or Safety Guidelines are available from SEMI and continue to be valid for use.

1 目的

1.1 本文書は，FPD 基板のパターン表面上における各範囲を規定し，更にそれらの関係について述べたものである。それは他の SEMI FPD 関連文書の用語およびバンキングコンベンションを想定している。

2 範囲

注意： このスタンダードおよび安全ガイドラインはその使用に関連した全ての安全上の問題を取り扱うことを意図していない。この文書の使用者は，その責任において，適切な安全および健康上実施すべき事項を決定し，また使用前に法規制やその他の制限への適用性を判断するものである。

3 参照スタンダードおよび文書

3.1 *SEMI スタンダードおよび安全ガイドライン*

SEMI D9 — Terminology for FPD Substrates

注意： 別途指示のない場合，引用された全ての文書は最新版を指す。

4 意義

4.1 FPD 基板上に置かれるパターンは，規定された中心範囲内に存在することが期待され，いくつかの要求条件は，基板およびパターン双方の品質について適用される。この外側の基板周辺領域は，異なる規定特性を持っている。関連用語と幾何学的関係を定義することは，基板およびプロセス／検査装置のサプライヤとユーザの一助となる。

5 概要

5.1 基板のエッジ長は，2 つの寸法 L_x および L_y により定義される。その各々が正常値と公差値とをもっている。

5.2 有効範囲は，2 つの寸法 QA_x および QA_y により定義される。そして，その各々が正常値と公差値とをもっている。

INACTIVE

注：SEMI による書面での了承なき場合は，本書の全部もしくは一部の転載を禁じる。
©SEMI ジャパン 〒102－0074 東京都千代田区九段南 4－7－15

Documents Document Sharing Hub
Full document details: SEMI D3-0091-0709R (Japanese)

5.3 固定エッジ除外領域は，リファレンス（“Banking”とも呼ばれる）ピンに対して置かれるべき基板エッジのために定義される。

5.4 2つの可変エッジ除外領域が上記3つの寸法セットを組み合わせることにより得られる。

6 手順

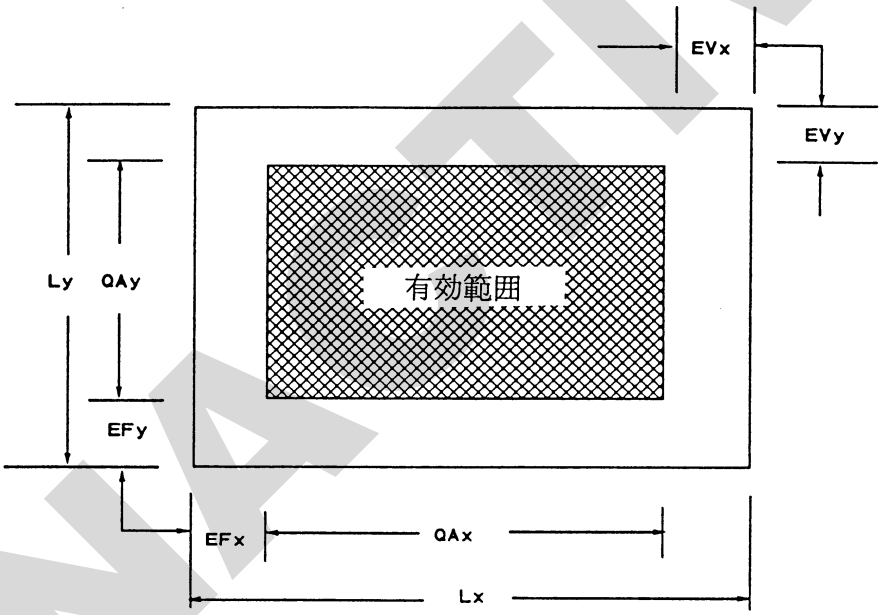
6.1 下記の¶6.2～¶6.4に示されている性質を，基板仕様で割り当てられた公称値を用いて，基板原点を基準にして表示する。

6.2 Lx ＝ X方向における基板エッジ長, Ly ＝ Y方向における基板エッジ長（図1参照）

6.3 EFx ＝ 基板の下側エッジに沿った固定エッジ除外領域, EFy ＝ 基板の左側エッジに沿った固定エッジ除外領域

6.4 QAx ＝ X方向における有効範囲のエッジ長, QAy ＝ Y方向における有効範囲のエッジ長

6.5 EVxおよびEVy（可変エッジ除外領域）は定義されない。それらは固定原点をもつ公称値からの基板公差変化の相互作用に起因するものである。



Lx, Ly
QAx, QAy } は公称値で定義される。
EFx, EFy

EVx, EVyは定義されないが，公差効果に起因する。

図1
基板の範囲関係

INACTIVE

Documents
Document Sharing Hub
Full document details: SEMI D3-0091-0709R (Japanese)